

## 平成20年度 教師海外研修 (派遣国：マレーシア) 実践報告書

1. タイトル                   マレーシアと私たちの暮らし
2. 氏名                       藤井宏樹
- |     |          |      |     |
|-----|----------|------|-----|
| 学校名 | 同志社香里中学校 | 担当教科 | 社会科 |
|-----|----------|------|-----|
3. 実践教科                社会科 地理的分野                   時間数                   5時間
4. 対象生徒・学年        中学1年生                                対象人数                266名

### 5. カリキュラム案

#### (1) 実践の目的

中学社会科地理的分野の発展学習として、「マレーシアと私たちの暮らし」を実施した。マレーシアは割合日本に近い国ではあるが、熱帯性気候、多民族国家、多宗教（国教はイスラム教）、植民地支配を受けた経験、豊富な資源、工業化を進めている中進国・・・等々、日本とは地理的・歴史的に大きく異なっており、たいへん興味深いテーマが設定できる。

そのなかで、アブラヤシプランテーションとパーム油をメインテーマに据えたのは、「開発」か「保護」かという「社会的ジレンマ」の状況をみせて、自分の生活に深くかかわっているが、現地のことはほとんど伝わってこない遠い世界のことには思いをはせ、自分に何ができるか、何をしなければならないかについて深く考えさせることができるからである。

すなわち、生徒の日常生活の中で使われているパーム油の生産のために、ボルネオの熱帯林が破壊されプランテーションが拡大している状況、そのことで希少な野生生物の住処が少なくなり、人間との軋轢が生じている状況、野生生物に危害を加える人間がいる一方で、わが子のように慈しみ、傷ついたゾウの救出に取り組んでいる人々や組織、マレーシアの開発・発展と保護のために活躍されている日本人がいること、企業の立場で原料生産地の現状に対しても責任を感じてRSPOやBCTなどの組織で積極的に活動している企業、そして、これらのことを知識として得たものの中学生レベルでは実際に何かの行動を起こすことが難しくもどかしい思いをする状況等々である。これらすべてのことを含めて、自分自身が関わっている「社会的ジレンマ」の状況が目の前に提示され、今日、明日から具体的に行動することを求められたときに、何を手がかりに考えるかということがポイントとなる。

また、公民的資質の育成という教科目標を達成するためには、討論や意見表明をする場を設けなければならないが、その際、人間にはそれぞれが依って立つ場所「立場（ポジション）」があり、特に社会的な問題を考える際には、そのポジションによってある程度考えることが似る傾向があるということに気づかせることも大切である。これは個人だけでなく、組織や団体（もちろんテレビ等のマスコミも）にも同様のことが言える。このことを理解したうえ

で、今後何かを考える際には、その人の立場に立って理由を考えることが必要であり、またそのことによって、いろいろな視点から物事を見つめ考えるという思考の訓練にもなる。

これらのことを念頭において、開発教育や起業家教育で使われるいろいろな手法を組み合わせ、体験的に学ぶことを目的とした。

## (2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>1 限目</p> <p>テーマ:これな～んだ? クイズ</p> <p>ねらい:日本とは異なる熱帯気候、イスラム教、マレーシアの生活等、今後学習する分野のイメージを膨らませ、興味を持たせる。</p>	<p>(1) マレーシアに関する写真等を見て、何の写真かを考える。</p> <p>(2) フォトランゲージの手法を用いて議論し、図書館で調べた内容を発表する。</p> <p>(3) 教師の解説を聞く。</p> <p>(4) パーム油を用いた製品を探す。(宿題)</p>	<p>(1) マレーシアで収集した写真、書籍、軍票、食品等</p> <p>(2) 図書館内の資料</p> <p>(3) 作業用プリント</p>
<p>2 限目</p> <p>テーマ:マレーシアについてもう少し深く知ろう</p> <p>ねらい①:マレーシアの民族や宗教、歴史について学ぶ。</p> <p>ねらい②:アブラヤシとパーム油の特徴について学ぶ。</p>	<p>(1) ワークシートの穴埋めをしながらマレーシアの民族や宗教、歴史について学ぶ。</p> <p>(2) パワーポイントで作成したスライドを見て、要点を確認しながらアブラヤシとパーム油の特徴について学ぶ。</p> <p>(3) 『素敵な宇宙船地球号～子ゾウの涙』を視聴して、内容をメモする。</p> <p>(4) 『素敵な宇宙船地球号～子ゾウの涙』が伝えたかったメッセージは何かを考える。</p> <p>(5) 番組を見て感じたことや考えたこと、これまでの学習内容に関して疑問に思ったことなどについて書く。(宿題)</p>	<p>(1) ワークシート No. 2 「マレーシアとパーム油」</p> <p>(2) PPT 「アブラヤシ・パーム油は凄い！」</p> <p>(1) ビデオ『素敵な宇宙船地球号～小ゾウの涙』</p> <p>(4) ワークシート No. 3 「パーム油と私たちの暮らし」(ビデオ視聴用メモ用紙)</p>
<p>3 限目</p> <p>テーマ:ボルネオ島の現状をどう考えるか</p> <p>ねらい:パーム油やボルネオ島の現状と、自分たちの生活の関係について、起業家教育の手法を</p>	<p>(1) ビデオや授業で学んだことを踏まえ、WANT, MUST, CAN の三つに分けてベン図を描き、考えを整理する。</p> <p>(2) ランキングの手法を用いて考えをまとめる。</p> <p>(3) これまでの授業を踏まえて、再度現段階でのWANT, MUST, CAN を考える。</p> <p>(4) 文化祭で展示するメッセージボードの葉っぱに</p>	<p>(1) ワークシート No. 4 「ボルネオ島の現状をどう考えるか」</p> <p>(2) 文化祭で展示するメッセージ用の葉っぱ</p>

用いて考える。	書く言葉を考える。	
4 限目 テーマ:ボルネオ島の現状をどう考えるか その2 ねらい:人物や組織にはそれぞれの立場や考えがあることを理解する。	(1) ビデオ（抜粋したもの）を視聴し、登場人物や組織の立場や考えに着目しながらメモをとる。 (2) ビデオに出て来なかった人物や組織等に関する解説を聞く。 (3) ポジショニングマップを使って、それぞれの立場や関係を理解する（宿題）	(1) ワークシート No. 5 「ボルネオ島の現状をどう考えるか その2」 (2) ビデオ『素敵な宇宙船地球号～小ゾウの涙』 (3) ビデオ『福留功男のジャングル紀行～ボルネオ・緑の絆』
5 限目 テーマ:ボルネオ島の現状をどう考えるか その3 ねらい:割り当てられた人物や組織の立場から考えたことを発表する。	(1) ポジショニングマップの手法を用いて、それぞれの立場や関係を整理する。 (2) 模擬 RSPD 会議 一人一役になって、RSPD での発言内容を考えさせる。ビデオ等の情報を元に、事実関係を踏まえたうえで、その人の立場に立って考えたことを発表する。	(1) ワークシート No. 5 「ボルネオ島の現状をどう考えるか その2」

## 6. 授業実践の詳細

### 〈1 限目〉 これな～んだ？クイズ（フォトランゲージ）

(1) マレーシアに関係する写真を見て、何の写真かを1人で考える。

（写真は1テーブルに1枚で12枚用意した。食虫植物、モスクの入り口で身を清めている人、赤新月社マークのついた救急車、KIBLAT、マクドナルドと HALAL、トイレ、ウルパンガス村にあった卵を産ませる器具、村の家、ツインタワー、マレーシアの民族が写っている捐血のポスター、カラオケや日本のアニメ・漫画、国立博物館の壁画。）

(2) 1テーブル3～4人ずつ（12グループ）に分かれて、各自が考えたことを述べ合う。

(3) グループ内で議論したり、図書館の資料を用いて調べたりする。

(4) パワーポイントで映し出された写真について調べたグループが内容を発表する。

(5) 発表にあわせて、教師が正解を示し解説する。

(6) アブラヤシの写真を見せて、「見えない油」といわれているパーム油は、知らないうちに口にしているはずだから、次回までに探してくるよという宿題の指示を与える。

### 〈2 限目〉 マレーシアについてもう少し深く知ろう

(1) ワークシートの穴埋めをしながらマレーシアの民族や宗教、歴史について学ぶ。

- (2) パワーポイントで作成したスライドを見て、要点を確認しながらアブラヤシとパーム油の特徴について学ぶ。
- (3) 『素敵な宇宙船地球号～子ゾウの涙』を視聴して、内容をメモする。
- (4) 番組が伝えなかったメッセージは何かを考える。
- (5) 番組を見て感じたことや考えたこと、これまでの授業やビデオの内容に関して疑問に思ったことなどについて書く。(時間が足りなかった生徒は宿題)

### 〈3限目〉 ボルネオ島の現状と自分たちの生活の関係について考える

- (1) ビデオや授業で学んだことを踏まえて考えをまとめる。
  - ◇ WANT、MUST、CAN の三つに分けて考える。
  - ◇ ベン図(大きな輪を三つ重ねた集合図)を描き、それぞれに当てはまるキーワードを書き入れて考えを整理する。
- (2) ランキングの手法を用いて考えをまとめる。
  - ◇ 12枚のカードから重要だと思うものを9枚選ぶ。
  - ◇ ダイヤモンドランキングで重要だと思うものから順に並べる。
  - ◇ グループで意見交換しながらダイヤモンドランキングを完成させる。
  - ◇ 自分のランキングとグループメンバーのランキングを比較する。
  - ◇ クラスで最も重要だと思うことがらを投票する。
- (3) これまでの授業を踏まえて、再度現段階での WANT、MUST、CAN を考える。
- (4) 文化祭で展示するメッセージボードの葉っぱに書く言葉を考える。
  - ◇ 切り取った葉っぱにメッセージを書く。

### 〈4限目〉 人物や組織にはそれぞれの立場や考えがあることを理解する

- (1) 2本の番組(『素敵な宇宙船地球号～子ゾウの涙 PRAT 2』と、『福留功男のジャングル紀行～ボルネオ・緑の絆』を一部抜粋したもの)を視聴する。
- (2) 番組に登場する人物や組織の立場や考えに着目しながら内容をメモする。
- (3) 番組に出て来なかった人物や組織等に関して、プリントや教師の解説で確認する。
- (4) ポジショニングマップ(縦軸は「開発ー保護」、横軸は「近いー遠い」)を使って、それぞれの立場や関係を整理する。(宿題)

### 〈5限目〉 自分とは違う立場に立って考える

- (1) ポジショニングマップの手法を用いて、それぞれの立場や関係を整理する。
  - ◇ 番組に登場した人物以外にも、プリントに記載された関係者や組織の立場も考慮する。
- (2) 模擬 RSP0 会議
  - ◇ 一人一役になって、RSP0 での発言内容を考える。
  - ◇ ビデオ等の情報を元に事実関係を踏まえたうえで、その人の立場に成りきって考える。
  - ◇ 黒板にそれぞれの立場(位置)を書き、みんなの前で考えたことを発表する。

- (3) ポジショニングマップで整理した立場をもとに、9つのグループに分ける。
- (4) 振り返りを行う。

〈テスト〉 テーマ：マレーシアと私たちの暮らし

- (1) 授業で使用した5枚の写真を解説する。(バナナの花、メッカの方角を示すマーク、赤新月社のマーク、ハラルマーク、第二次世界大戦中に大日本帝国政府が発行した軍票)
- (2) マレーシアの現状や歴史、アブラヤシやパーム油に関する知識を問う問題と、ランキング手法を用いて、今自分がすべき事を考えて書く。
- (3) 更家悠介さん、ヤムリンさん、パリット村の村長さんがRSP0に参加したらどういう内容の発言をするか、それぞれの職業・役割・活動内容や考え、ポジションを明らかにしたうえで、会議での発言内容を考えて書く。
- (4) ゾウにアブラヤシを食べられたサコンさんはプランテーションのオーナーなので、立場上「開発」を選ぶのが普通であるが、あえて「保護」の立場に立つとしたら、その理由と考えられることは何かを考えて書く。
- (5) 「授業を受けてきて、あなた自身は何をどうすればよいと思ったか。あなたのポジションを明らかにしたうえで、今考えていることや今後の具体的な行動について」書く。

ポジショニングマップ（9分割の場合）

開発		
A	B	C
D	E	F
近い		遠い
G	H	I
保護		

**出題に関する解答例** [I] や [F] は自分のポジションを示している。

- ◆ [I] 今、パーム油は世界的に注目されていて、お菓子などにも利用されています。その事が動物立ちに影響を与えているという事を知っている人は少ないと思います。現地ではプランテーションが多く開発されていて、動物が住んでいる森が破壊されていっています。開発はいつでもできるけれど、いなくなった動物をまた森に戻す事はそう簡単ではありません。なので、今すぐ開発をやめて、森に動物を戻して欲しいと思います。そのために僕もできることはやりたいと思います。例えば、このことを知らない人に伝えてできるだけパーム油を使っている商品を買わないように呼びかけたりして協力したいと思います。
- ◆ [I] 身近にある食べ物の中に入っている油のことで、これだけ多くの人や動物たちが困っていることを初めて知った。動物たちを保護するためにプランテーションをもう一度森に戻したら、そのプランテーションで働いていた人やオーナーがお金をかせげなくなり生活

できなくなる。そこが難しいところです。だから僕は今のままで少しだけ森を戻し、そのための募金をできるだけしたいなあと思っています。

◆〔F〕 日本からとても遠いし、すぐになにかしてあげられると思いません。環境は保護したいし、動物たちも助けたい。けれど自分たちは今までパーム油を使って暮らしてきました。急にそれがなくなるといってもやはり困ります。けれど、このまま同じように使いつづけて、動物たちを殺しているのをただ見ているだけというのは許しがたいことだと思います。すぐにボルネオまで行って木を植えるとかそんなことはできないけれど、まず現状をしっかりと理解して心にとめていきたいと思います。すぐに大きな変動はないんだろうけれど、少しずつ先ず身近なものから変えていって環境に役立てたいです。（中略）私はむちゃくちゃ環境を変えられないし、そんな立場じゃないけれど、もし自分たちがボルネオの動物たちだったら…ということを考えて、少しでも環境保護に役立てられるようにしたいです。

◆〔F〕 私はゾウが安心して暮らせる環境のために保護することは必要だと思う。でも、プランテーションも必要だと思う。パームオイルが世の中に普及してきているのに、今なくしてしまったら困る人は多いと思うし、環境に良いイメージのあるパームオイルは将来的にも必要だから。なので、ゾウが安心して暮らせる環境と、プランテーションは両方必要だと思う。それには共存できる環境が必要だ。また、少ない国で多くの量を作るのではなくて、多くの国で作ることが出来たら、必死になって作る必要がなくなり、ゾウたちの居場所を作れる可能性が増えたり、居場所を増やすことにもつながるのではないのだろうか。

◆〔F〕 パーム油を使わないことはできない。なぜなら、パーム油は食品や日用品などに使われており、パーム油を使わなくなると食品を食べずに生活していくことになり、そんなことが人間にできるはずがない。それにパーム油をやめて大豆油を使ったとしてもマレーシアなどの熱帯林は保護されても、ブラジルの熱帯林を伐採する事になるため、パーム油をやめたからといって問題が解決するわけでもない。では、どうすればよいのか。それは食物を大切にすることである。そうすれば無だパーム油を使わなくてすむので、熱帯林の減少も収まる。また、募金活動などに参加し…

◆〔F〕 僕は今、CよりのFの立場です。なのでこれからIにかわれるように4Rをして、熱帯林に暮らす人々や動物のことを常に心にとめて生活してパーム油の消費をひかえます。

## 7. 生徒の反応

- ・教科書を使用した通常の授業と違い、図書資料やビデオ、コンピュータを用いての映像資料などをたくさん用いたので分かり易かった。
- ・ビデオに映し出される傷ついたゾウの映像はショッキングだった。
- ・知らずに使っていた「見えない油」パーム油のメリットをたくさん学んだ後に、熱帯林の破壊や野生生物の住みかが失われていること、それに対するマレーシアでの取り組み、そしてRSPOのような国際会議と、BCTのような環境保護団体の活動を知った。
- ・自分で考えたり発表したりする活動が多かったのしんどかったが、ためになった。
- ・模擬RSPO会議が面白かった。

## 8. 所感・反省点・改善策

言うまでもなく、この授業を構想するに当たっては、JICAの教師海外研修で初めてマレーシアを訪問し、いろいろな経験をさせていただいたことがベースになっている。「実施の目的」にも書いたが、マレーシアは日本とは地理的・歴史的に大きく異なっており、たいへん興味深いテーマが設定できる。そのうえ、今回初めて訪問したマレーシアでは、私自身がさまざまな刺激を受けて帰国したこともあって、伝えたいことがたくさん出てきた。

そのなかで、パーム油をメインテーマに据えたのは、「開発」か「保護」かという「社会的ジレンマ」の状況をみせて、考えさせることができるからである。すぐに結論の出ない問題、どれが正しいとか正しくないという判断のつかない問題、同じ人物でも立場や役割が変われば考え方も変わる可能性がある問題等々、世の中にはこのような問題が山積している。そこで求められるのは、現状把握や歴史的背景を理解するための知識と、目に見えないものへの想像力、論理的思考力、そして行動力である。自分の生活に深くかかわっているが、現地のことはほとんど伝わってこない遠い世界のことに思いをよせ、自分に何ができるか、何をしなければならぬかについて深く考えさせることができるからである。

自分自身が関わっている「社会的ジレンマ」の状況が目の前に提示され、今日、明日から具体的に行動することを求められたとき、生徒たちは何を考えたのか。一生懸命考えたということは期末考査の答案からも伺えた。

一方、反省点もいくつかある。今年度は週1時間しか担当しておらず、前時の授業から1週間以上空いてしまうので、生徒の記憶に残りにくいという問題があった。そこで強く印象付けるために、写真や漫画その他の材料、テレビ番組、パワーポイントなどの視聴覚教材を取り入れたのだが、その分、授業時間内に収めることが難しくなり、宿題にした部分も多くなってしまった。

私自身がここ十年、起業家教育の手法を取り入れた授業開発を行っているため、今回もいくつかの手法を取り入れたが、その説明に時間がかかってしまって作業時間が短くなったときもあった。

もう少し時間的に余裕があれば、生徒たちの理解も深まり、模擬 RSP0 会議でももっと白熱した議論ができたのではないだろうか。

## 9. 参考資料・引用文献等

京都自由学校調査研究入門講座編 『あるいて みて きいた モノのこし方・行く末』 京都自由学校、2001

山崎朋子著 『サンダカン八番娼館―底辺女性史序章』 文春文庫、1972

坂内久・大江徹男編 『燃料か食料か―バイオエタノールの真実』 日本経済評論社、2008

特定非営利活動法人開発教育協会 『パーム油のはなし「地球にやさしい」ってなんだろう?』 DEAR、2002

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター編 『バイオ燃料《畑でつくるエネルギー》』 (DVD) PARC、2007

事前・事後研修資料、現地施設リーフレット、ボルネオ保全トラスト (BCT) のリーフレット

各ウェブサイト (サラヤ株式会社、ライオン株式会社、日本植物油協会、BCT)

過去に放映されたテレビ番組 (1) 『素敵な宇宙船地球号～子ゾウの涙』、(2) 『素敵な宇宙船地球号～子ゾウの涙 PRAT 2』、(3) 『福留功男のジャングル紀行～ボルネオ・緑の絆』